

2019 年度決算 決算説明会 Q&A

Q: 19 年度が業績予想に対して上振れとなった主な要因を教えてください。

A: 19 年度下期はスマートフォン向けの MLCC、SAW フィルタ、RF モジュールが好調だったほか、コストダウンにも力を入れました。また、コロナウイルスに備え顧客が部品在庫を確保する動きが見られ、業績予想を上回りました。

Q: 19 年度第 4 四半期の受注高を、前年同期比で月別に教えてください。

A: 1 月は+0~5%、2 月は+10~15%、3 月は+35%程度でした。前年同期は流通在庫の調整があり受注高が低調だったことに加え、当期は 3 月にコロナウイルスに備え顧客が部品在庫を確保する動きが見られました。

Q: 20 年度の製品別売上予想で、コンデンサが前期比横這いとなっている背景・分析を教えてください。

A: 19 年度は流通在庫の調整があり売上が低調でした。20 年度は自動車やスマートフォンの生産台数が減少するものの 1 台当たりの員数は増加しており、数量ベースでは前期比+5~10%増えると予想しています。平均単価はサイズが大きい自動車向けの構成比が下がるほか、一定の値下がりを見込み、前期比で下落すると予想しています。

Q: 20 年度の製品別売上予想で、モジュールが前期比▲17%程度となっている背景・分析を教えてください。

A: 20 年度はコロナウイルスの影響でスマートフォンの生産台数が減少することもあり、Wi-Fi モジュールとメトロサークの売上が大きく減少するため、モジュールの売上が減少すると予想しています。

Q: 20 年度から 21 年度にかけての展望を教えてください。

A: コロナウイルスの影響が収まれば、通信では 5G や SaaS、自動車では CASE が本格的に進み、需要が大きく回復すると考えています。

当 Q & A に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。

(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当 Q & A に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。